

令和3年度 江戸川区立松江第五中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○よく学び、深く考えた行動のとれる生徒の育成</li> <li>○心身ともに健康で、思いやりの心をもった生徒の育成</li> <li>○責任を重んじ、自主性に富んだ生徒の育成</li> </ul>	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○「学びと行動の学校」(全ての活動に生徒の学びがある学校、全ての活動で生徒が前向きに活動する学校)を築くことで、学校の教育目標を達成する。○「学び、つながり、高め合い、きりひらく生徒」(自ら学び、互いに学び合う生徒、人や物や社会とのつながりを大切にする生徒、互いの個性や能力を認め、高め合って伸びる生徒、自他の知恵と力を合わせて問題を解決し、未来をきりひらく生徒)を育て、学校の教育目標を達成する。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・60周年記念式典を行うことができ、生徒たちの活動も工夫し生徒が自己有用感をもてる活動ができた。 ・オリパラ講演会においてオリンピックを呼びよい講演会ができた。 ・コロナ禍においても中庭を利用して吹奏楽部の発表を行い、学年運動会も工夫して実施できた。 <課題>・不登校が改善しきれない生徒に対する指導と対応。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上</li> <li>・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実</li> </ul>	校内独自検定(MMM検定)を活用し学習を進める。	MMM検定の合格者を85%以上を目指す。	A	A	MMM検定により基礎学力の定着が確実に進んでいる。	A	MMM検定を行うことで単元の振り返りを行い、次の学びにつながりありがたい。	基礎学力の定着を更に進めるため、定期考査前の補習教室を充実させる。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等)</li> <li>・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お勧め本紹介カード作成や弁論大会に向けた自身の考えをまとめ発表する。</li> <li>・図書スーパーバイザーと図書ボランティアによる学校図書館整備。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書を通じて自己の考えをまとめ表現できるようにする。</li> <li>・学校図書館の整備をスーパーバイザー中心に毎月1回書ボランティアによる学校図書館整備。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラス・学年内での弁論大会で発表することで、自信につながり自己肯定感が高まる。</li> <li>・学校図書館整備が進み、移動図書選定も先生方の協力で、多様な図書を新しく購入することができた。</li> <li>・宿泊学習や校外学習において、本による調べ学習を行い、まとめ発表の機会を多く持つことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめ相手に伝えることは、仕事をするうえでも大切なことである。</li> <li>・本は自ら学ぶ基本と考える。ネットでなんでも調べられる時代であるが、学校図書館の活用がさらに増えると良い。</li> </ul>	他者の考えを聞くことで、違う考えに触れ自らの考えについて、再考しブラッシュアップできる力をつけていく。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上</li> </ul>	体育の授業初めに体力向上を目指し、基本運動を取り入れた。	体育の授業毎時間で行い体力の向上を目指す。	A	A	コロナ禍による運動不足は否めないがその中でも工夫して取り組めた。さらなる体力向上が課題である。	A	中学や高校は人生の中でも基礎体力をつける大切な時期である。将来のためにも元気な体を作ってほしい。	寒い時期には長距離走に取り組みませ、体力向上を図る。
	オリパラ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1964年の東京オリンピックの当時の記録や写真をパネルにし掲示した。</li> </ul>	東京2020オリパラのメダリストたちの結果をパネルにして校舎内に掲示する。	A	A	オリンピック・パラリンピックについての掲示をパネルにして掲示し、生徒や来校する関係者に好評で	A	スポーツのめざましを実感することができ、生徒たちにも記憶と感動に残るものだったと思う。	冬季北京オリンピックについても何らかの形で取り上げる。
	外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力の向上とALTの効果的な活用</li> </ul>	テーマを決めそれぞれについての質問や自分の意見をALTと共有し、英語力向上を図る。	スムーズな会話や相槌が自然にできるように、自ら質問をかけるように促す。	A	A	ALTと楽しみながら話す生徒が増えた。質問が同じ内容に偏りがなくなる。	A	グローバルな世界に出ていく生徒たちには英語を使いこなしてほしい。	英語に親しめるよう英語科教員で工夫している。
特別支援教育の充実	健全育成に向けた取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実</li> <li>・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援委員会を中心に不登校生徒の状況を確認しLSCと対応方法を考え実践していく。</li> </ul>	SC、区関係機関と連携し生徒一人一人に合った手立てを準備する。	A	A	生徒個々の時間経過による変化や対応の変化を記録し、対応を順次変えており最良な手をつけている。不登校生徒全員に対応できていない。	A	不登校の生徒たちは一人一人違い、家庭の状況も違っており、良い方法を模索してほしい。	学校だけではなく、関係諸機関との連携を深め対応していく。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実</li> <li>・エンカレッジルームの活用促進</li> <li>・副籍交流、交流及び共同学習の充実</li> </ul>	巡回指導専門員や巡回指導教諭と連携し、苦しい内容や困りごとを確認してできることを増やしていく。	生徒一人一人に合う指導方法を検討し、できるだけ早く適切な方法で対応する。	A	A	苦しんでいる生徒が多く、一人一人違う対応が必要で工夫している。時間がたってしまうことが課題である。	A	新しい取り組みで巡回してくる先生方がいるというところであるが、少しでも前向きになるよう指導してほしい。	個々の生徒に必要な支援を巡回指導専門員や巡回指導教諭と早く見つけ対応していく。
	教員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修</li> </ul>	ICT校内研修の実施	ipadを活用した研修を行い、授業配信ができるようにする。	A	A	ICT研修が進み、教員がipadを活用し授業を進められるようになってきている。自宅でも生徒が授業を受けられる。	A	時代の流れと言えば仕方がないが、少なくとも小中学生は学校で授業を受けられる環境を整えてほしい。	不登校生徒の授業への参加を目指して取り組んでいく。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での小中連携の形を模索するが、できる範囲で取り組み少しでも生徒たちの活動にプラスになる取り組みを進める。</li> </ul>	7月7日に2校の小学校とオンライン研修を行い、卒業した生徒たちの学校生活の要する動画で見てもらった。	7月7日に2校の小学校とオンライン研修を行い、卒業した生徒たちの学校生活の様子を動画で見てもらった。	B	B	新しいか所の小中連携ができた。更なる連携の形を模索することが課題である。	B	先生方の連携も含めて、児童生徒の連携も早く取り組めるようになってほしい。	コロナの感染状況と区の判断に従い実現に向けて計画していく。
	オリパラ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックやパラリンピアンから夢に向かう気持ちや態度について学び、自己の人生へ生かすことができる。</li> </ul>	PTAと連携して「夢を育む講演会」と題し、オリンピックやパラリンピアンを講師として招く。	3月10日に講師を招き、講演を行う予定であり、人選を進めている。	A	A	ブレイクダンスの日本代表選手を招くことができないか打撃をしており、3月に講演を行う予定である。	A	24年のパリオリンピック正式種目ということで若い人たちには注目を集めそうに楽しみである。	折衝を繰り返し実現させた。